

SMFアート寺子屋  
アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン  
IV

# アートすることの 意味?

埼玉県立近代美術館講座室

2017.1.15(日) 13:00-17:00

入場無料 定員40名 先着順(事前申し込み不要)

いつからアートが鑑賞されるものになったのか

そもそもアートって何なのか

アーティストってどんなことなのか

アートを通じた地域社会の活性化というテーマが活発化してすでに何年も経ちました。そんななかで、アートに携わる人々は、アートをもっと多角的に考える必要にも迫られているといえます。そこで、SMF(Saitama Muse Forum)では、いつからアートは鑑賞されるものになったのか、そもそもアートってなんなのか、アーティストってどういうことなのかということを考えてみる場をつくりたいと考えました。

私達の祖先はいつからアートするようになったのかは、今からおよそ15,000年前の洞窟壁画や、およそ36,000年前に作られたフルートの発見などにその始原を捉えることができます。それら以前にネアンデルタール人が仲間を埋葬したという発見もありました。「アートすること」の誕生と人間の誕生とは切り離せないものかもしれません。人間ほど生まれてから一人前になるまでに手間がかかる動物はなく、その手間をかける時間が親から子への文化継承の土台になり、その文化継承における進化が、生物学的な進化を超えたとき、人間は人間になった、という視点は歴史学者のウイリアム・マクニールによるものです。

今の私達にとってあたりまえになっているアートと私達の関係について、パネリストの皆さんと共に考え、アイデアを共有することが今回のアート寺子屋のテーマです。

パネリスト: 吉原太郎(作曲家/富士電子音響芸術祭ディレクター)

藪前知子(東京都現代美術館学芸員)

福中冬子(音楽学/東京芸術大学准教授)

コーディネイター: 柴山拓郎(作曲家・SMF運営委員)

SMF (Saitama Muse Forum)は、埼玉県内の5つの芸術・文化拠点(入間市博物館アトリ、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーアトリア、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館)と、建築家、現代美術家、モダンダンサー、現代音楽作曲家、俳人、詩人などのアーティストや、美術教員、美術館／博物館学芸員たち、アートを通じた地域活動を展開する様々な市民によって構成されている集団です。多彩なメンバーがそれぞれのスキルやビジョンを持ち寄り、アートを軸としたプラットフォームを形成することを目的とした活動を2008年より行っています。その過程で多くの交流が生まれ、いくつかのアートイベントが県内に定着しつつあります。

SMFでは2014年度から2016年度にかけて、「住・衣・食」「あなたとどこでもアート」をテーマとした取り組みを展開しています。「住・衣・食」という順序は、単に「衣食住をアーティストックに彩る」のではなく、人間を取り巻く環境を外側(住→衣)から中心(食)に向けて掘り下げるための構成となっています。また「あなたとどこでもアート」では、少しでも多くの人々がアートを自ら作る側になっていいのではないのかという視点で、参加型のプロジェクトアートを企画してきました。この二つのテーマの背景には、いつからアートが鑑賞されるものになったのか、そもそもアートって何なのか、アーティストックってどんなことなのか、今を生きる私たちにとってのアクチュアルなアートの在り方ってどういうものなのか、を考えたり意識化したいという考えがあります。

今年のSMFアート寺子屋では、作曲家で富士電子音響芸術祭ディレクターの吉原太郎さん、東京都現代美術館学芸員の藪前知子さん、音楽学者の福中冬子さんをお招きします。専門分野や活動についてお話いただくとともに、このようなテーマをどう捉え、何か答えに近づけるかどうか、来場される皆さんとアイデアやビジョンを共有できることを期待します。

多くの皆さまの御来場をお待ちしております。

#### パネリストプロフィール



**吉原太郎**(作曲家・富士電子音響芸術祭ディレクター):1968年東京生まれ。山梨大学大学院修了。作曲を豊住竜志、藤原嘉文、電子音楽を成田和子の各氏に師事。2001年INA-GRM夏期電子音響アトリエへ参加。2002年以降デジタルマルチトラックによるマルチチャンネル作品の制作へ傾倒。ブルジュ電子音楽祭(フランス)、フチュラ(フランス)、ラジオフランス、ICMC2014、ギリシャ)、CCMC、JSEM定期、ISEA、Ina GRM主催Acousma(2013フランス)等で上演、2013年にはテレビ山梨でその活動が紹介される。現在富士電子音響芸術祭を主宰。



**藪前知子**(東京都現代美術館学芸員):1974年、東京生まれ。これまで企画担当した主な展覧会は、「大竹伸朗 全景 1955-2006」(2006)、「山口小夜子 世界を着る人」(2015)、「おとなも子どもも考える ここはだれの場所?」(以上、東京都現代美術館)。現在、札幌国際芸術祭2017の企画チームに参加。東京都現代美術館が清澄白河のまちに出る、「MOTサテライト2017春」企画担当。



**福中冬子**(音楽学/東京芸術大学准教授):中冬子:東京芸術大学大学院音楽研究科(音楽学)准教授。国立音楽大学音楽学部器楽科卒業。ニューヨーク大学人文大学院音楽学部修士課程および博士課程修了(Ph.D.)。ニューヨーク大学、慶應義塾大学、明治学院大学非常勤講師等を経て、現職。専門は西洋音楽史(近現代)、音楽美学。著書に Wolfgang Rihm: Interpretive Examination of His Creative Sources (UML2003)、「〈文化的自由の為の会議〉にみる、音楽における冷戦の射程」(慶應義塾大学 日吉紀要 人文科学第23号、2008年)、「オペラ学の地平」(共著、彩流社、2009年)、「Narrative, Voice, Reality in the Operas of Toshio Hosokawa and Misato Mochizuki」 Vocal Music and Contemporary Identities (Routledge, 2012)。

SMFアート寺子屋

アートプラットフォーム形成のためのメタデザインⅣ

埼玉県立近代美術館講座室

2017.1.15(日) 13:00-17:00

入場無料 定員40名 先着順(事前申し込み不要)

